

2023 年卒

外国人留学生の就職活動状況に関する調査

2022 年 8 月発行

新型コロナによる出入国規制で急減した外国人留学生。国際的な競争力強化を課題とする日本企業にとって、ますます貴重な存在となっているが、就職活動や意識にどのような特徴があるだろうか。

ディスコではキャリアス就活 2023 に会員登録している外国人留学生を対象に、職業観や就職活動状況などを調査した。比較可能なものに関しては、国内学生（日本人学生）や海外の大学で学ぶ日本人留学生の調査データを引用しながら分析する。

【主な調査内容】

1. 現在の日本語力	・・・・・・・・ P 2
2. 就職したい企業の種類	・・・・・・・・ P 3
3. 日本での就職を希望する理由と不安に感じること	・・・・・・・・ P 3
4. 日本企業に対するイメージ	・・・・・・・・ P 4
5. 就職したい企業の規模と志望業界	・・・・・・・・ P 5
6. 就職先企業を選ぶ際に重視する点と希望する働き方	・・・・・・・・ P 6
7. インターンシップ等（※）のプログラム参加状況	・・・・・・・・ P 8
8. 就職活動開始時期	・・・・・・・・ P 8
9. 7 月時点の就職活動量と内定状況（※）	・・・・・・・・ P 9
10. 企業に評価してもらいたいこと	・・・・・・・・ P 10
11. 就職活動の情報源	・・・・・・・・ P 10
12. 企業研究で把握しやすかった情報／もっと発信してほしい情報	・・・・・・・・ P 11
13. 留学の満足度	・・・・・・・・ P 12
14. 外国人留学生就活川柳	・・・・・・・・ P 12

※「インターンシップ（就業体験を伴う複数日程のプログラム）」に限定せず、1 日以内のプログラムも含めて調査
※「内定」には、内々定を含む

《調査概要》

調査対象：2023 年 3 月卒業予定の外国人留学生（現在、大学 4 年生・大学院修士課程 2 年生）
調査方法：インターネット調査法
調査期間：2022 年 7 月 1 日～18 日
サンプリング：キャリアス就活 2023 に会員登録している外国人留学生 2,329 人

回答者の属性 単位：人

文系	286	大学院	230	国公立	171
理系	89	学部	145	私立	204
合計	375	合計	375	合計	375

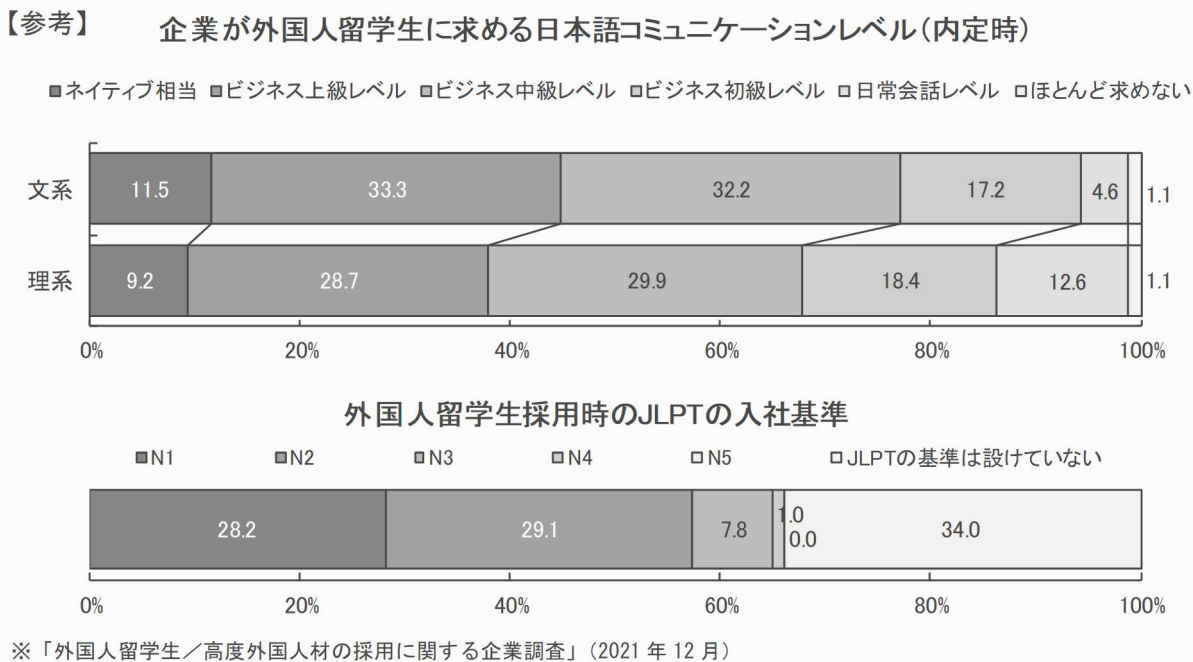
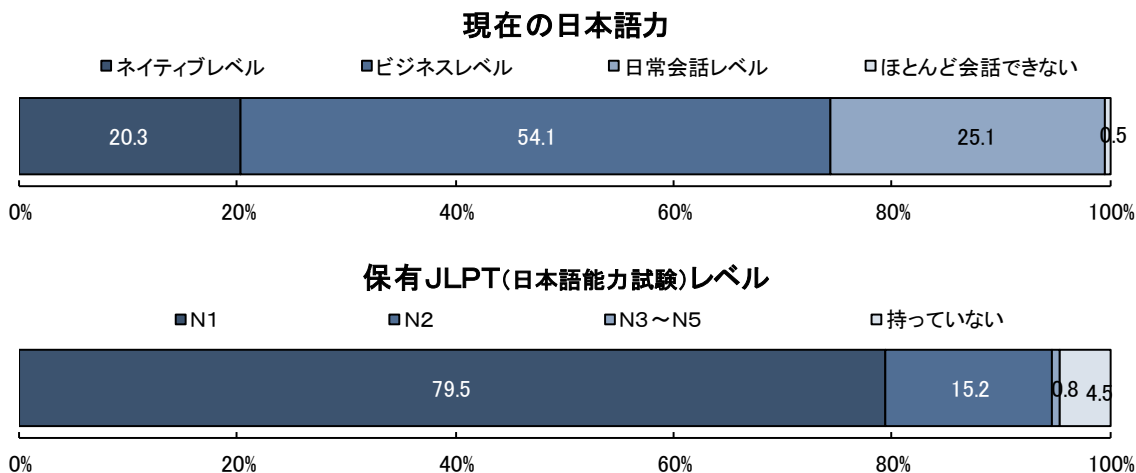
●出身国・地域

中国	台湾	韓国	東南アジア	その他アジア	ヨーロッパ	北米	南米	その他	合計
259	18	36	36	15	4	1	2	4	375

※国内学生の調査結果は「キャリアス就活 2023 学生モニター調査」（2021 年 11 月、2022 年 1 月、2 月、3 月、7 月調査）より
※日本人留学生の調査結果は「海外留学生の就職活動に関する調査結果」（2022 年 4 月発行）より

1. 現在の日本語力

まず、現在の日本語力について尋ねた。「ネイティブレベル」(20.3%)、「ビジネスレベル」(54.1%)を合わせて、ビジネスレベル以上の日本語力を有する者は 7 割強に上る (計 74.4%)。J L P T (日本語能力試験) のレベルについても、最高レベルである「N 1」の保有者は約 8 割 (79.5%)。企業が求める日本語コミュニケーションレベルや入社基準に達している者は多い。

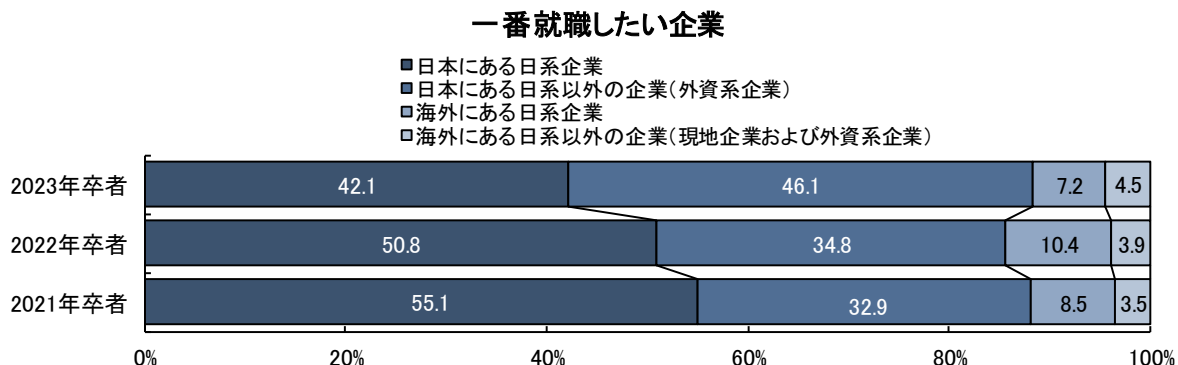


■ JLPT(日本語能力試験)とは？

- 日本語を母国語としない人の日本語能力を測定し認定する試験。
- 【N1】幅広い場面で使われる日本語を理解することができる。
- 【N2】日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる。
- 【N3】日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる。
- 【N4】基本的な日本語を理解することができる。
- 【N5】基本的な日本語をある程度理解することができる。

2. 就職したい企業の種類

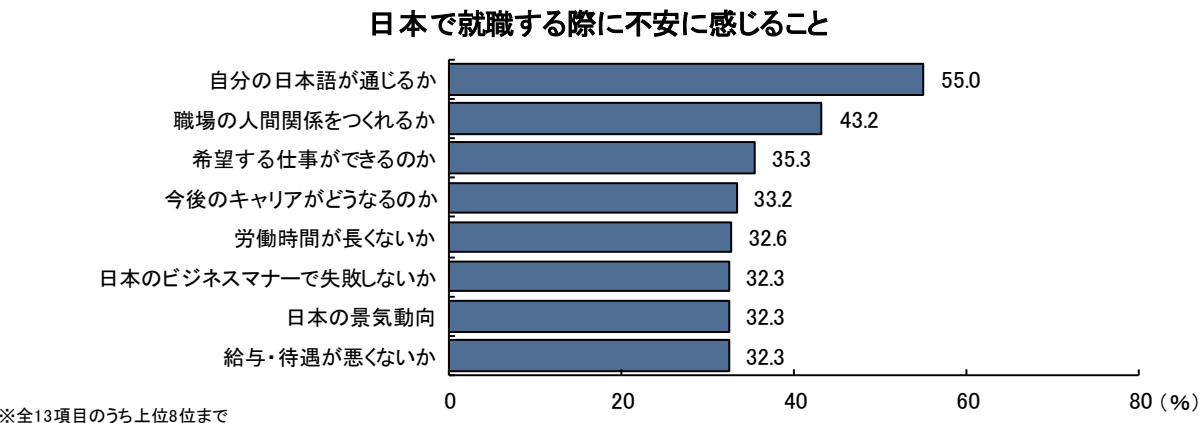
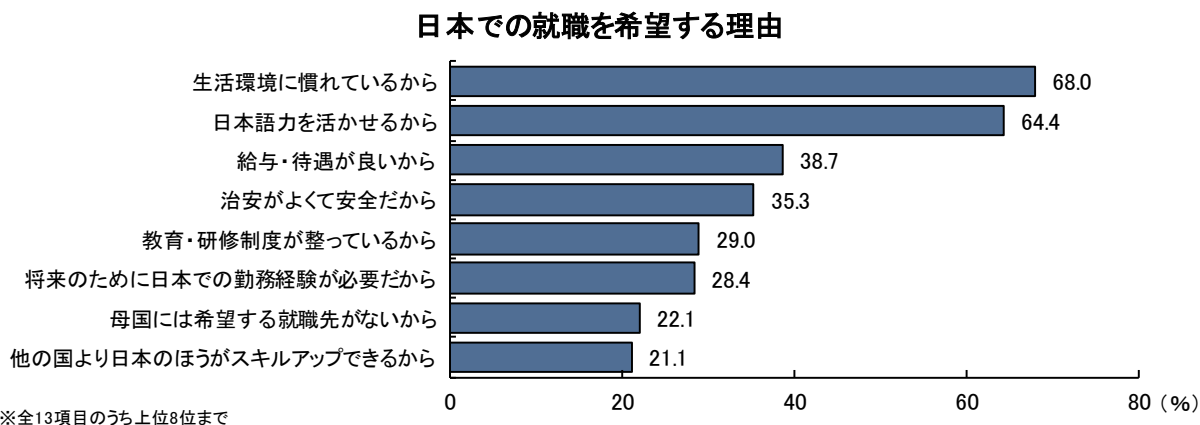
卒業後に就職したい企業の種類を尋ねた。最も多いのは「日本にある日系以外の企業（外資系企業）」で、前年調査から大きくポイントを伸ばした（34.8%→46.1%）。その分「日本にある日系企業」は減少したが（42.1%）、日本での就職を望む外国人留学生は合わせて約9割に上る（計88.2%）。

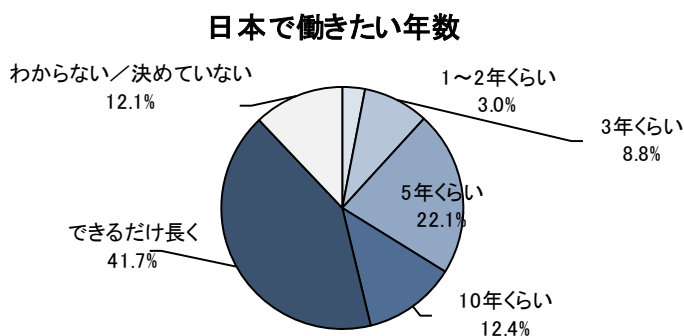


3. 日本での就職を希望する理由と不安に感じること

日本での就職を希望する理由として最も多いのは、「生活環境に慣れているから」で約7割（68.0%）。ここに「日本語力を活かせるから」（64.4%）が続く。一方、不安に感じることで最も多いのは「自分の日本語が通じるか」で、過半数が選択（55.0%）。留学で培った日本語力を活かしたい反面、ビジネスの場で通用するか自信を持ってない者も少なくないようだ。

なお、日本で働きたい年数を尋ねると、「できるだけ長く」（41.7%）という回答が最多で、短期間での帰国を考えている者は比較的少数だった。（グラフは次ページ）

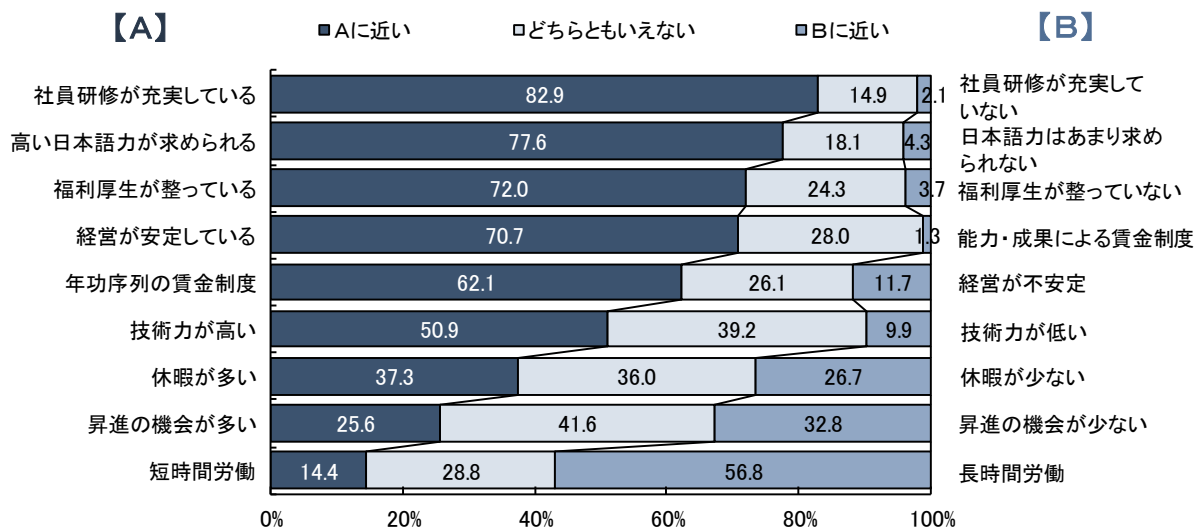




4. 日本企業に対するイメージ

日本企業に対して抱いているイメージを尋ねると、「社員研修が充実している」（82.9%）、「福利厚生が整っている」（72.0%）などが多くのポイントを集め、安心して働ける環境があると捉えていることがうかがえる。反面、「長時間労働」（56.8%）、「昇進の機会が少ない」（32.8%）などの負のイメージも見られる。また、「高い日本語力が求められる」を8割近くが選んでおり（77.6%）、日本企業への就職の障壁と感じる留学生もいるだろう。

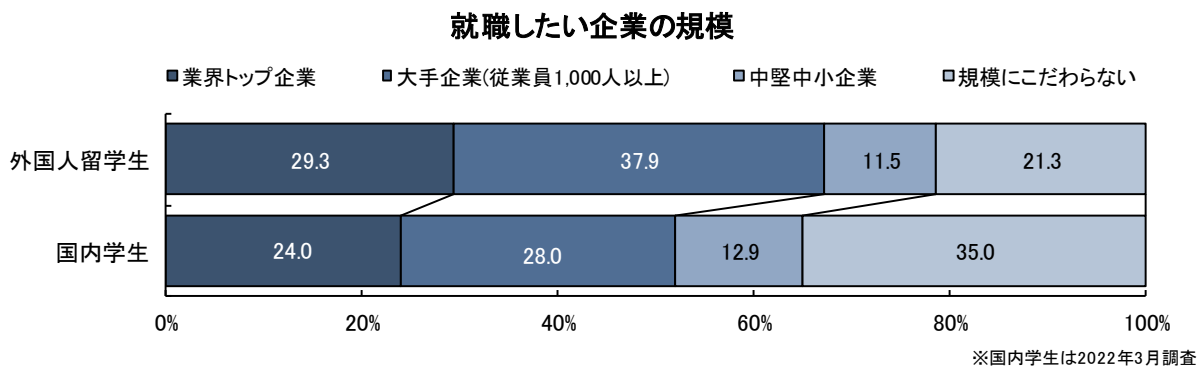
日本企業に対して抱いているイメージ



- 良いイメージ：福利厚生が整っている、研修制度が整っている。悪いイメージ：職場の人間関係がきつい、残業が多い。 <中国出身>
- 技術力が高く歴史の古い企業が多く、経営へのノウハウが蓄積されて安定的な企業が多い。一方、意見を言い出しにくい環境や風通しの悪いイメージもある。 <韓国出身>
- 技術力が高いが、変化に対応しきれない感じがあります。 <インドネシア出身>
- 社員を大切に感じる態度を感じます。でも、出世はそれほど簡単なことではないようです。 <中国出身>
- ジェンダーバイアスがまだまだ存在している。 <中国出身>
- 残業が多くて、やらなくてもいいのに社内で強制的にやらされるイメージがあります。 <イタリア出身>
- 飲み会とかあってみんな仲良く仕事していると思う。 <スリランカ出身>
- 日本企業は高い日本語能力が求められていると感じているので、できれば外資系企業で働きたいです。 <マレーシア出身>

5. 就職したい企業の規模と志望業界

日本企業に限らず、就職したい企業の規模を尋ねた。「業界トップ企業」(29.3%)と「大手企業」(37.9%)を合計すると7割に迫る(計67.2%)。国内学生(日本人学生)の計52.0%と比べて15ポイント以上高く、外国人留学生の大手志向の強さが読み取れる。日本にある企業になじみが薄い分、まずは知名度のある業界トップ企業に目を向ける留学生も少なくないと見られる。



続いて、志望業界を40業界の中から5つまで選んでもらい、文理別に集計した。文系の1位は「商社(総合)」(33.7%)。グローバルに活躍したい留学生に、毎年人気だ。2位「情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト」(31.1%)、3位「情報・インターネットサービス」(29.7%)と続く。理系も1位「情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト」(32.6%)、2位「情報・インターネットサービス」(29.7%)と、IT業界が人気だ。理系の2位は「医薬品・医療関係・化粧品」(31.5%)。

なお、国内学生(日本人学生)と比較すると、IT業界が人気上位を占める点は共通しているが、文系において「商社(総合)」「商社(専門)」「ホテル・旅行」など、語学力や異文化対応力が求められる業界で、外国人留学生の人気が高いのが特徴的。

就職活動当初の志望業界(上位10業界)

文 系				理 系			
外国人留学生		国内学生		外国人留学生		国内学生	
1	商社(総合) 33.7	1	銀行 21.3	1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 32.6	1	素材・化学 24.0
2	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 31.1	2	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 17.8	2	医薬品・医療関連・化粧品 31.5	2	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 22.5
3	情報・インターネットサービス 29.7	3	情報・インターネットサービス 17.7	3	情報・インターネットサービス 24.7	3	情報・インターネットサービス 19.7
4	調査・コンサルタント 23.1	4	調査・コンサルタント 14.4	4	調査・コンサルタント 20.2	4	水産・食品 18.1
5	商社(専門) 19.4	5	建設・住宅・不動産 14.3	5	電子・電機 19.1	5	電子・電機 17.2
6	ホテル・旅行 15.8	6	マスコミ 14.0	6	精密機器・医療用機器 16.9	6	自動車・輸送用機器 16.6
7	証券・投信・投資顧問 15.0	7	商社(専門) 13.7		素材・化学 16.9	7	医薬品・医療関連・化粧品 16.4
8	人材サービス・人材紹介・人材派遣 15.0	8	水産・食品 13.6	8	機械・プラントエンジニアリング 14.6	8	機械・プラントエンジニアリング 15.7
9	銀行 13.9	9	運輸・倉庫 12.3	9	自動車・輸送用機器 13.5	9	建設・住宅・不動産 14.0
10	自動車・輸送用機器 13.2	10	官公庁・団体 12.1		建設・住宅・不動産 13.5	10	精密機器・医療用機器 12.0
					水産・食品 13.5		
					エネルギー 13.5		

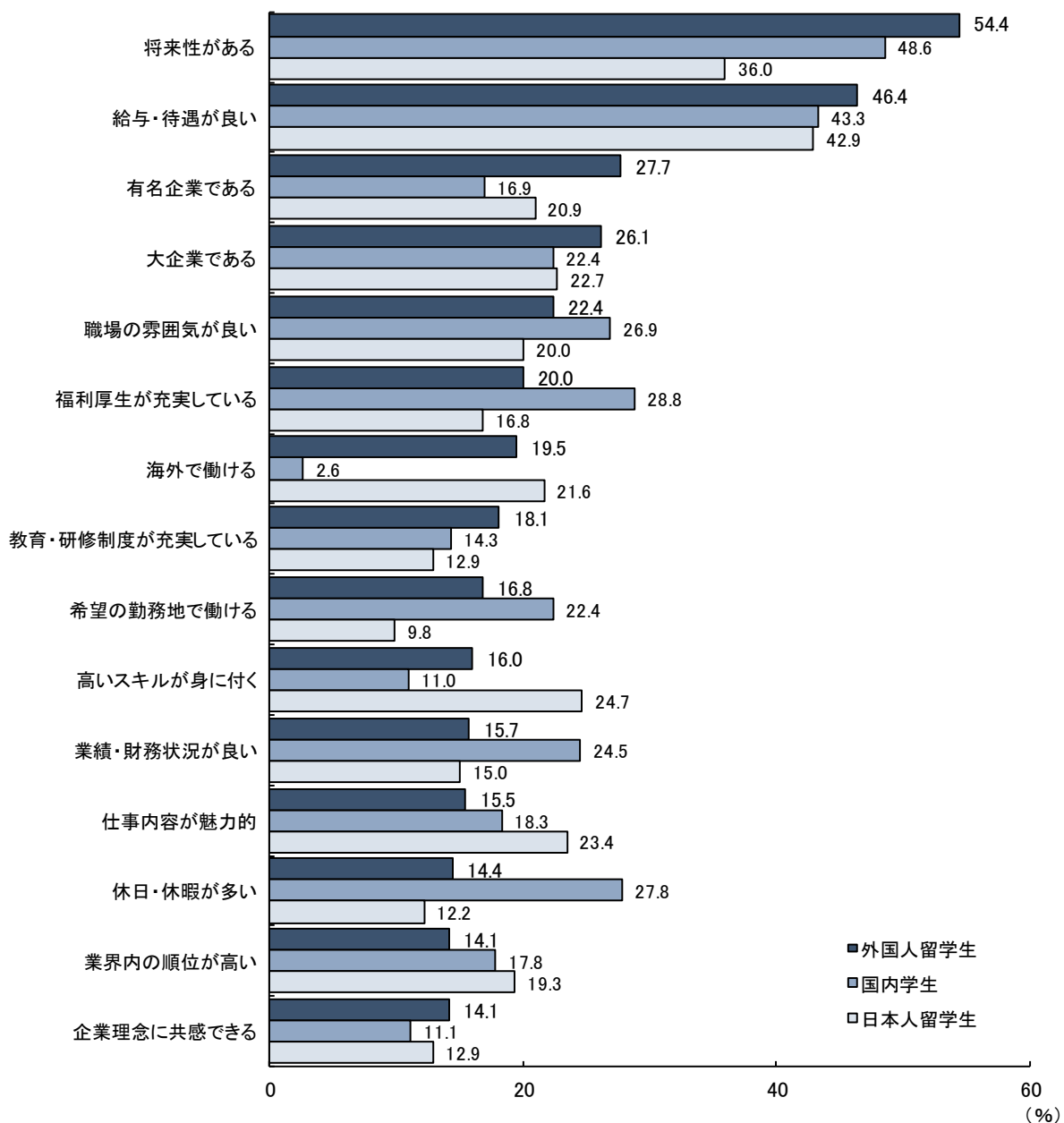
※40業界の中から5つまで選択
※国内学生は2022年3月調査

6. 就職先企業を選ぶ際に重視する点と希望する働き方

外国人留学生が就職先を選ぶ際に重視する点は、「将来性がある」が最も多く、過半数が選んだ(54.4%)。ここに「給与・待遇が良い」(46.4%)が続き、上位2項目は国内学生と同じ順位。ただし、外国人留学生の方がそれぞれポイントが高い。国内学生は全体的にポイントが分散しているのに対し、外国人留学生では上位項目に集中しているのが特徴的。

「福利厚生が充実している」「休日・休暇が多い」などの働きやすさに関する項目は、国内学生では上位項目であるのに対し(28.8%、27.8%)、外国人留学生はそれぞれ大きく下回り(20.0%、14.4%)、国内学生ほど関心は高くないようだ。

就職先企業を選ぶ際に重視する点(上位15位まで)



※全30項目のうち外国人留学生の上位15位まで

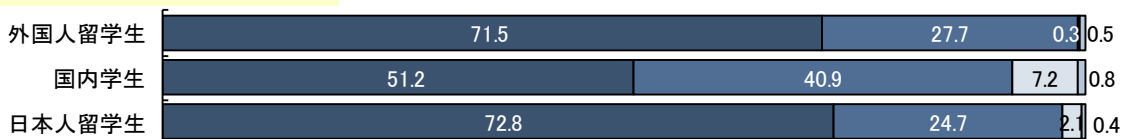
※国内学生は2022年1月調査

次に、就職先企業選びに下記の 3 つの項目がどの程度影響するかを尋ね、国内学生、日本人留学生と比較した。「(1) 仕事を通して成長できること」は、外国人留学生の 7 割超が「とても影響する」と回答（71.5%）。企業選びで重要な要素であることがわかる。「(2) 多様性のある職場環境であること」は、「とても影響する」が過半数（52.3%）に上る。海外で学ぶ日本人留学生も同様に関心が高いのに対し、国内学生は低め（34.0%）で、その差は顕著。「(3) 柔軟な働き方ができること」は、留学生・国内学生ともに、「影響する」の合計が約 9 割と、共通して関心が高い。

就職先企業選びへの影響度合い

■とても影響する ■ある程度影響する □あまり影響しない □まったく影響しない

(1) 仕事を通して成長できること



(2) 多様性のある職場環境であること



(3) 柔軟な働き方ができること



※国内学生は2022年1月調査

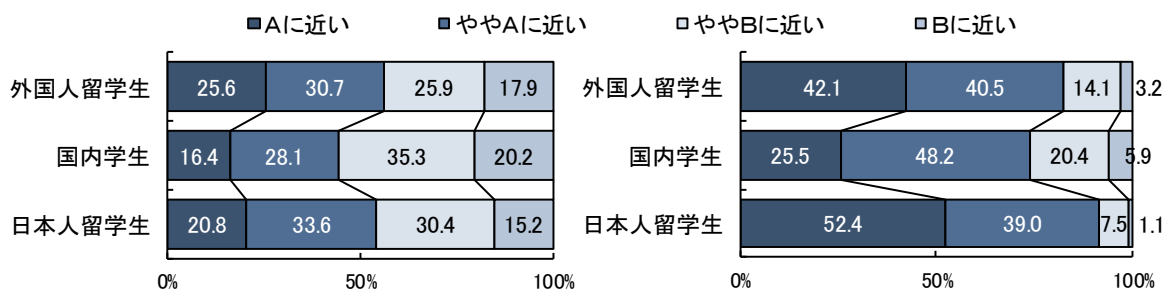
続いて、働き方の指標について対照的な項目を示し、希望に近い方を選んでもらった。

まず、「1 つの分野で専門性を高めたい」と考える外国人留学生は合わせて 56.3%。「幅広い業務を経験したい」（計 42.8%）を 13.5 ポイント上回り、日本人留学生や国内学生と比べて高い。「キャリアパスは自分で主導権をもちたい」は 8 割を超え（計 82.6%）、自律的にキャリアを形成したいと考える外国人留学生が大半だ。

働き方についての考え

- A. 1つの分野で専門性を高めたい
- B. 幅広い業務を経験したい(ジョブローテーション)

- A. キャリアパスは自分で主導権をもちたい
- B. 会社に任せたい

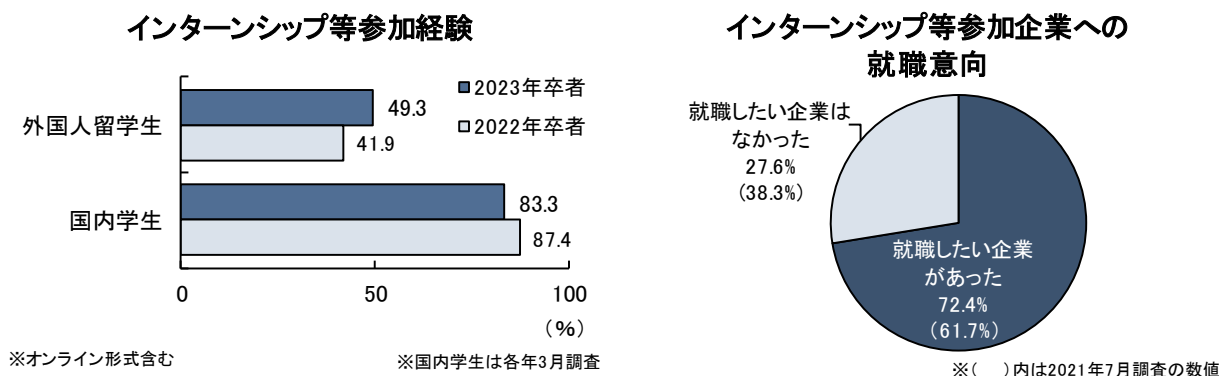


※国内学生は2022年2月調査

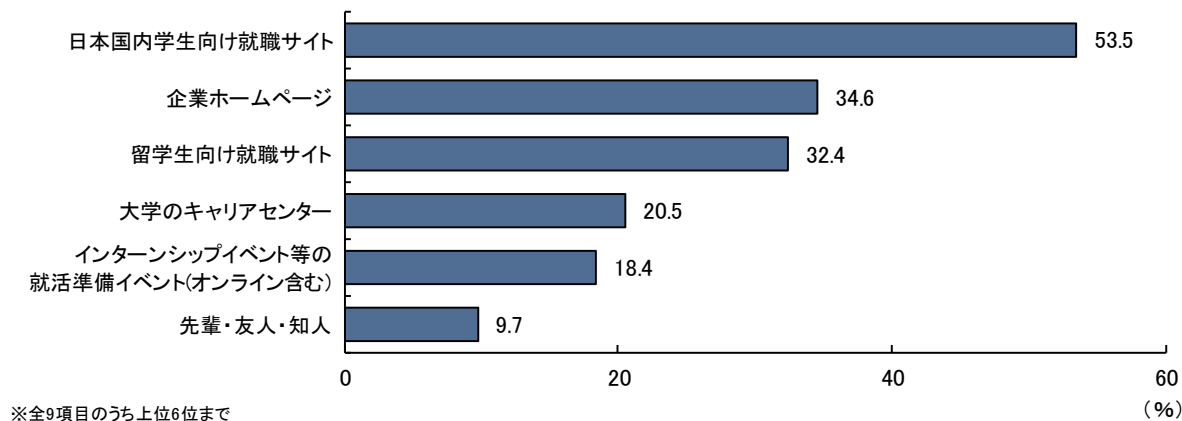
7. インターンシップ等（※）のプログラム参加状況

日本国内でのインターンシップや仕事研究プログラム等への参加経験を尋ねた。「参加した」と回答した外国人留学生は約 5 割（49.3%）。前年調査より 7.4 ポイント増加したものの、国内学生の経験率（83.3%）とは大きな開きが見られる。参加した結果、就職したいと思う企業があったという外国人留学生は 7 割を超える（72.4%）。参加率は国内学生と比較すると低いものの、インターンシップ等への参加が、外国人留学生の就職先企業選びに与える影響は大きいことがわかる。

※1 日以内のプログラムも含む

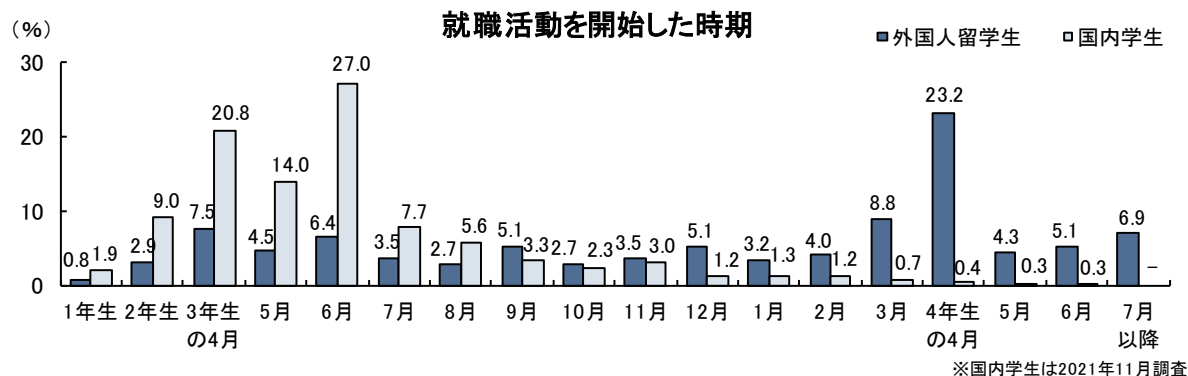


参加したプログラムを知ったきっかけ



8. 就職活動開始時期

外国人留学生が就職活動を開始した時期は「4年生の4月」が最も多く（23.2%）、次に多いのは「3年生の3月」（8.8%）。採用広報解禁（3月）以降の合計は半数弱（計 48.3%）。一方、国内学生は「3年生の6月」（27.0%）が最も多く、解禁前の合計が 98.3%に上る。国内学生に比べ、外国人留学生の動き出しがかなり遅いことがわかる。



9. 7 月時点の就職活動量と内定状況（※）

調査時点（7 月）のエントリー社数は平均 24.1 社で、前年同期調査と同水準。企業セミナー、ES 提出社数、筆記・適性テストも、いずれも前年と同水準。面接試験の社数は、前年同期を 1.4 社上回っており、ES や筆記試験など、面接に至る前の選考の通過率が高まったことが読み取れる。

国内学生の平均社数を上回る項目も多く、スタートは遅いものの、精力的に活動している様子が表れている。

就職活動の社数

	全体		文系	理系	(国内学生)
		(前年)			
エントリー社数	24.1	23.9	25.8	18.8	26.9
企業単独開催セミナーの参加社数	19.4	19.3	21.0	14.3	17.0
エントリーシート提出社数	18.6	19.1	19.3	16.3	15.2
筆記・適性テストの社数	14.3	13.9	15.0	12.0	10.7
面接試験の社数（WEB面接含む）	9.6	8.2	10.3	7.6	9.2

※国内学生は2022年7月調査

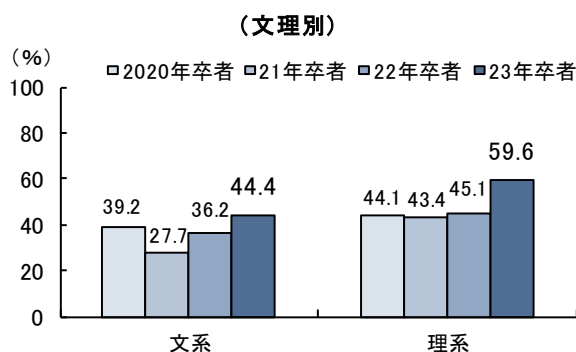
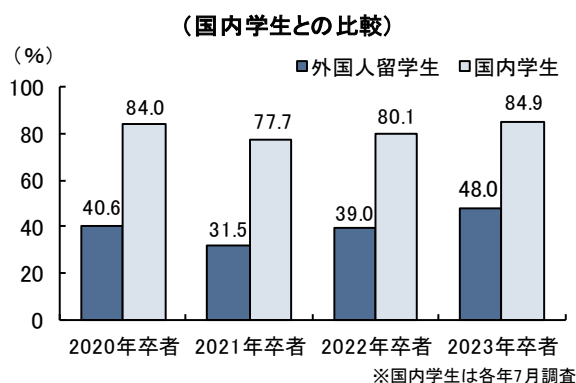
7 月時点の内定率は 48.0% で、前年同期調査より大幅に上昇した（9.0 ポイント増）。コロナ禍前の 2020 年卒者の内定率（40.6%）と比較しても 7.4 ポイント上回り、就職環境の改善がうかがえる。ただし、国内学生の 8 割超（84.9%）とは大きな開きが見られる。

文理別で差が大きく、文系 44.4% に対し、理系は約 6 割（59.6%）に上る（15.2 ポイント差）。文理ともに前年を上回るが、特に理系の伸びが目立つ（14.5 ポイント増）。

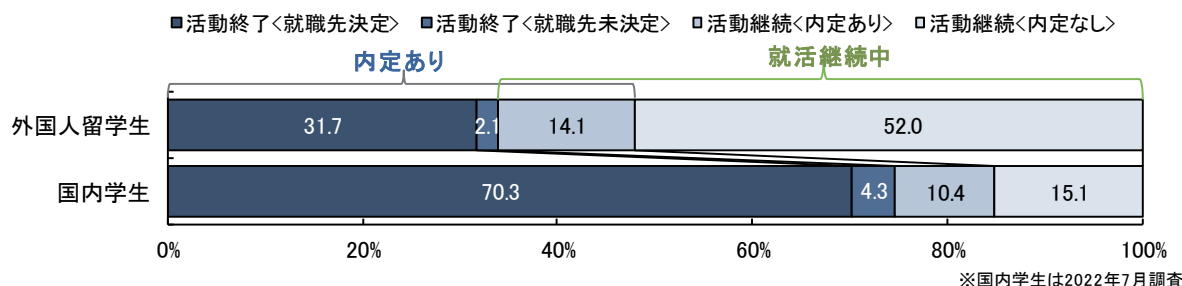
内定取得者も含め、就職活動を継続している外国人留学生は 6 割強（計 66.1%）。国内学生（計 25.5%）の 2 倍以上に上る。就職活動の動き出し時期の違いにより、進捗に顕著な差が生じている。

※「内定」には、内々定を含む

7 月時点の内定率



7 月時点の就職活動状況



11. 企業に評価してもらいたいこと

企業に評価してもらいたいことを尋ね、国内学生、日本人留学生と比較した。いずれも 1 位は「コミュニケーション能力」だが、外国人留学生は 6 割超 (61.3%) と日本人学生よりポイントが高いのが目立つ。また、2 位以下は「語学力」「基礎学力」「異文化対応力」と続き、留学経験を通じて向上させた能力を評価してもらいたいと考える留学生が多いことがわかる。

企業に評価してもらいたいこと(上位 10 位まで)

外国人留学生			国内学生			日本人留学生		
1	コミュニケーション能力	61.3	1	コミュニケーション能力	46.5	1	コミュニケーション能力	52.2
2	語学力	36.0	2	協調性	42.8	2	異文化対応力	38.5
3	基礎学力	29.9	3	信頼性	28.4	3	協調性	37.9
4	異文化対応力	29.1	4	熱意	28.0	4	語学力	30.4
5	協調性	28.0		明るさ	28.0	5	社交性	24.9
6	専門知識	26.7	6	基礎学力	23.3	6	リーダーシップ	23.1
7	熱意	24.3	7	社交性	23.0	7	信頼性	22.2
8	社交性	21.6	8	身だしなみ・マナー	21.7	8	基礎学力	20.2
9	信頼性	20.3	9	一般常識	18.8	9	バイタリティー	20.0
10	明るさ	18.7	10	社会的関心	15.6	10	熱意	18.4

※全24項目のうち上位10位まで

※国内学生は2022年3月調査

○語学力と学習能力。留学生なので日本人より人一倍の努力しているところ。

<中国出身>

○日本人学生よりも柔軟な発想や対応ができることを評価してほしいです。

<モンゴル出身>

○コミュニケーション能力、リーダーシップなどのソフトスキルです。

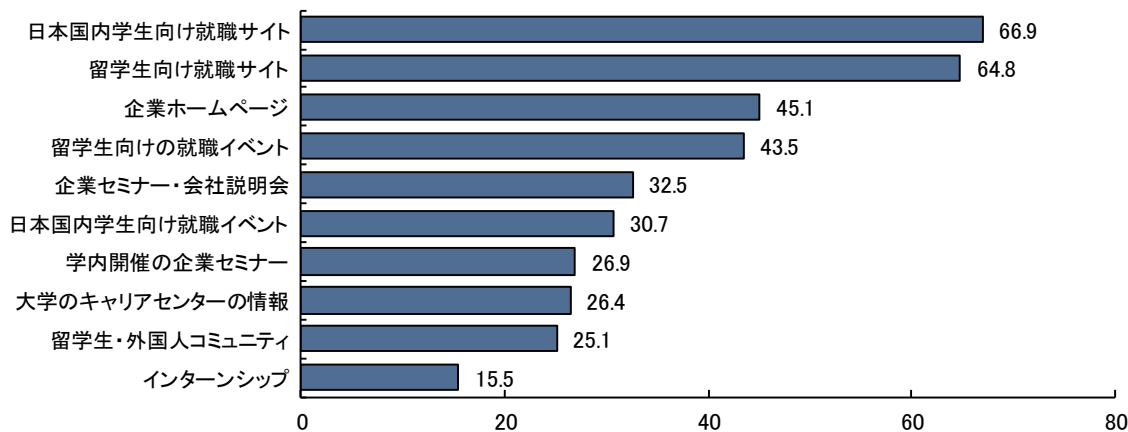
<マレーシア出身>

12. 就職活動の情報源

外国人留学生が活用している就職活動の情報源について尋ね、上位項目をグラフにまとめた。最も多いのは「日本国内学生向け就職サイト」(66.9%)。これに「留学生向け就職サイト」(64.8%)が続き、多くの外国人留学生が就職サイトを広く活用していることがわかる。

「企業ホームページ」(45.1%)、「留学生向けの就職イベント」(43.5%)が4割台で続くなど、様々な手段を用いて情報収集を行っていることがわかる。

就職活動の情報源



※全18項目のうち上位10位まで ※オンライン含む

(%)

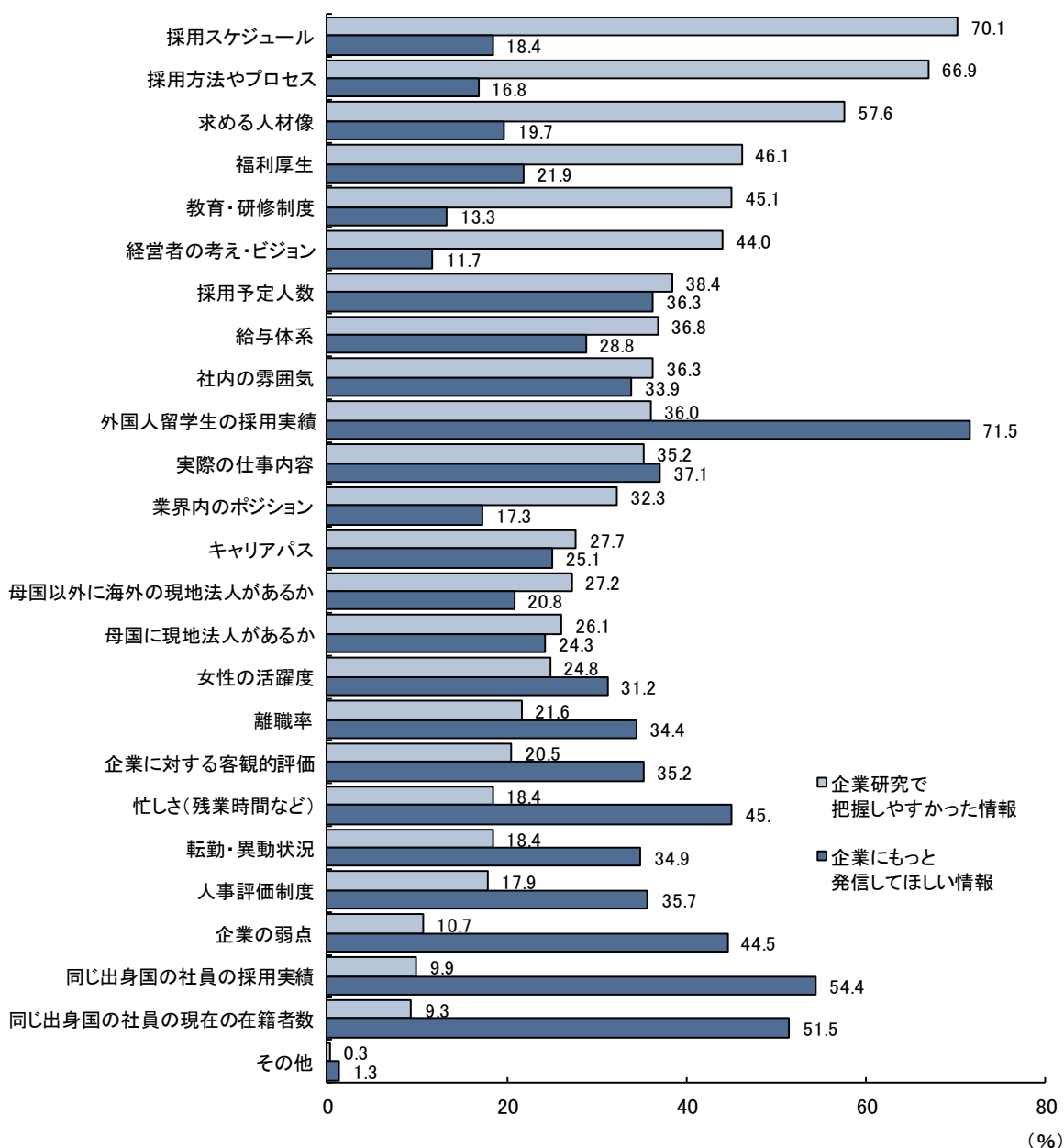
13. 企業研究で把握しやすかった情報／もっと発信してほしい情報

「企業研究で把握しやすかった情報」と「企業にもっと発信してほしい情報」をそれぞれ尋ね、比較した。

まず、企業研究をする上で把握しやすかった情報は、「採用スケジュール」が最も多く、約 7 割（70.1%）。これに「採用方法やプロセス」（66.9%）、「求める人材像」（57.6%）と基礎的な採用情報が続く。

対して、企業にもっと発信してほしい情報は、「外国人留学生の採用実績」（71.5%）が突出している。次いで、「同じ出身国の社員の採用実績」（54.4%）、「同じ出身国の社員の現在の在籍者数」（51.5%）と外国人採用の実態に関する情報が続く。把握しやすかった情報と比較すると大きな差が見られ、外国人採用情報の積極的な開示を企業に求めていることがわかる。

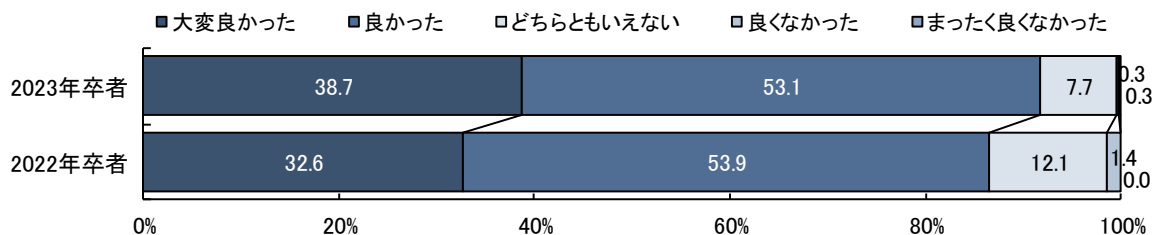
企業研究での情報



14. 留学の満足度

日本への留学全般についての感想を尋ねた。「大変良かった」（38.7%）と「良かった」（53.1%）を合わせると 9 割を超え（計 91.8%）、満足度は高い。コロナ禍による行動制限が大きかった前年の調査（2022 年卒者）と比べ、5.3 ポイント上昇した。良かった理由としては、語学力の向上だけでなく、異文化での生活を経験したことで視野が広がったことなどが多く挙げられた。ただ、依然として、コロナ下で満足な留學生活を送れていない様子もうかがえる。

留学をした感想



■ 留學生活の感想

- 海外に出て、母国と異なる環境と接することにより、自分の視野が広がったと感じた。 <韓国出身>
- 母国では経験できないことをたくさん経験できたし、何より自分の成長を感じた。 <インドネシア出身>
- 友達たくさん作ることができ、研究生活も充実していた。 <中国出身>
- 自分の能力やポテンシャルを認めてくれる会社と出会った。そして、多様な課外活動ができて充実した大学生活を過ごした。 <韓国出身>
- コロナ禍なので、学校のクラブ活動や研究室活動が中止になることも多く、人と人との交流が少なくなり、日本語の練習もしづらくなっています。 <中国出身>

■ 就職活動で困ったことや苦労したこと

- 就活において情報を入手することが、日本人学生より不利な状況にあったことです。 <マレーシア出身>
- 理系なので、実験がかなり忙しくて就活の時間がほぼない。そして、研究に関することはすべて英語で行うから日本語能力は文系より弱い印象がある。 <中国出身>

15. 外国人留学生就活川柳

日本での就職活動で感じたことを、川柳に詠んでもらった。全 123 作品が寄せられた中から、一例を紹介したい。日本特有の就活スタイルに戸惑いながらも奮闘する様子うかがえる。

